

事務事業名	ONOメモリアル管理運営事業			事業コード	10050800201
所管部署	みくに龍翔館	電話	82-5666	記入者名	天井 和峰
事業対象	坂井市民及び利用者				
総合計画	基本構想	生涯を通じて学び・育つまちづくり		事業区分	自治事務（任意的なもの）
	基本計画	歴史・文化・芸術の伝承と振興		事業種別	施設管理事業
実施主体	市	実施手段	市が直接実施	委託内容	
根拠法令	有	文化振興基本法			
根拠例規	有	坂井市ONOメモリアル条例、坂井市ONOメモリアル条例施行規則			
関連計画	有	坂井市教育振興基本計画			
【事業の概要】 事業の目的・事業の概要等	故小野忠弘の住居兼アトリエの保存とその活用を図るとともに、市民の美術に関する知識の向上と美術文化の創造に寄与する。				
	冬期間の12月～翌年の2月を除き、毎週金・土・日と祝日の午前10時から午後4時まで開館。企画展時のみ有料とし高校生以上300円を徴収、施設の管理とともに旧小野邸の公開を実施している。 平成23年度は、春季には企画展として、「中野重治展」（4月8日～5月29日）を、また夏季には「うかい小夜子作品展」（6月10日～7月31日）を開催した。 企画展開催の初日には、中野重治の詩を10点選定した、正津勉氏をお招きし、鮎田彩子氏による中野重治の詩の朗読会を開催しました。芸術感性育成事業として、現代美術ジュニアセミナーを実施し、作品展示も実施しました。				

すぐにできる改善提案	
目標年度 未設定 年度	
取組状況	
中長期的に取り組むべき改善提案	
目標年度 未設定 年度	
取組状況	

【前年度改善案に対する取組状況】	【市民のニーズ】 社会情勢や環境の変化により、市民ニーズが薄れていませんか？	A. 薄れていない B. 少し薄れている C. 薄れている	A
	【市が実施する妥当性】 市が事業実施主体となることは妥当ですか？（国、県、民間の活動と重複していませんか？）	A. 妥当である B. あまり妥当でない C. 妥当でない	A
	【受益の公平性】 特定の個人や団体に受益が偏っていませんか？	A. 偏っていない B. 多少偏っている C. 偏っている	C
【担当者評価】	【事務の効率化】 事務手続きの見直しなど、事務の効率性をさらに向上させることができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
	【民間活力の導入】 事業の成果を低下させず民間活力（民間委託、指定管理者、まちづくり協議会等）を導入することで、さらにコスト削減することができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	C
	【歳入増加策】 受益者負担金や歳入増加策を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	A
【有効性】	【事業の成果】 事業成果の目標達成状況は順調ですか？（事業の成果が十分に上がっていますか？）	A. 順調である B. あまり順調でない C. 順調でない	A
	【サービス内容の見直し】 成果を向上させるためサービス水準や対象を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	A
	【他事業との統合】 類似・関連事業との統合により、成果をより向上させることはできますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A

予算	款	教育費	項	社会教育費	目	文化振興費					
【事業のコスト】	コスト	事業費	平成23年度		平成22年度		平成21年度		平成20年度		
			報酬	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
			委託費	1,443	千円	千円	千円	千円	千円		
			需用費	721	千円	千円	千円	千円	千円		
			役務費	139	千円	千円	千円	千円	千円		
			その他	466	千円	千円	千円	千円	千円		
		事業費合計	2,769	千円	千円	千円	千円	千円			
		人件費	正職員	0.60	人	4,077	千円	人	千円	人	千円
			臨時職員	0.20	人	459	千円	人	千円	人	千円
			人件費合計	0.80	人	4,536	千円	人	千円	人	千円
	総事業費			7,305	千円	千円	千円	千円	千円		
	事業費	特定財源	国県支出金		千円	千円	千円	千円			
			使用料・手数料	115	千円	千円	千円	千円			
			分担金・負担金		千円	千円	千円	千円			
			地方債		千円	千円	千円	千円			
その他				千円	千円	千円	千円				
一般財源			7,190	千円	千円	千円	千円				
財源合計		7,305	千円	千円	千円	千円					

事業の方向性	このまま継続します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	小野忠弘氏の作品展示と氏に関連する美術展や現代美術の次世代を担う人材育成を促す事業を開催します。			
実施主体の方向性	現状どおり実施します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	引き続き市が実施していきます。			
コスト投入の方向性	現状を維持します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	現行の予算を最大限に活用して集客に努めます。			
人員投入の方向性	現状を維持します。	目標年度	--	年度を目安
判断事由	現状の人員で事業を実施します。			
すぐにできる改善提案	高校生現代アートビエンナーレのような人材育成を目的とした事業開催時に地域住民のボランティアを募集、事業に参加してもらうことで将来企画運営に参画してもらえる人材を育成していきます。			
目標年度	平成28	年度		
中長期的に取り組むべき改善提案	小野忠弘を顕彰するとともに現代美術の底辺拡大を図り情報の発信拠点となる事業の開催を通して地域ボランティアの育成に努め企画運営に参画してもらうなど、運営改善を検討していきます。			
目標年度	平成28	年度		

	指標名	単位	年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度
成果	ONOメモリアル入館者数	人	目標値	1707	達成率	1707	達成率
			実績値	707	41.42	911	53.37
成果	ONOメモリアル入館料	円	目標値	117000	達成率	117000	達成率
			実績値	114900	98.21	41700	72000
活動	ONOメモリアル有料入館者の割合	%	目標値	50	達成率	50	達成率
			実績値	58	116	15	20
活動	企画展の回数（主催事業及び後援事業）	回	目標値	4	達成率	4	達成率
			実績値	4	100	4	4
			目標値		達成率		達成率
			実績値				
			目標値		達成率		達成率
			実績値				

事務事業名	みくに龍翔館管理運営事業			事業コード	10050800601		
所管部署	みくに龍翔館		電話	82-5666		記入者名	釣部 由紀子
事業対象	坂井市民、坂井市内外の利用者及び坂井市を訪れる観光客						
総合計画	基本構想	生涯を通じて学び・育つまちづくり			事業区分	自治事務（任意的なもの）	
	基本計画	歴史・文化・芸術の伝承と振興			事業種別	施設管理事業	
実施主体	市		実施手段	市が直接実施		委託内容	
根拠法令	有	博物館法、博物館法施行令、文化振興基本法					
根拠例規	有	坂井市みくに龍翔館条例、坂井市みくに龍翔館施行規則					
関連計画	有	坂井市教育振興基本計画					
事業の概要	文化財の保護・調査と施設の充実 みくに龍翔館は開館後30年を経過しており、施設の老朽化に対応し、展示の充実化を図る。また、坂井市の博物館として資料収集・調査研究を実施し、市の文化遺産の散逸を防ぎ、地域文化遺産の保存活用を進める。						
	毎週水曜日と年末年始を除き、午前9時から午後5時まで開館。入館料大人300円、小人150円を徴収。施設の管理とともに資料の収集・保存・調査研究・公開を実施している。						
事業の目的・事業の概要等	<p>◆施設管理 修繕料（自動ドア他）954,534円、需用費（修繕料以外）6,693,536円、役務費650,297円、委託料7,989,481円、使用料及び賃借料399,215円、工事請負費（煙道改修工事）1,900,500円、備品購入費（館内非常用発電機始動用備品他）215,740円、その他負担金など38,400円</p> <p>◆郷土史研究講座の開催 9/17参加者82名、3/10参加者104名 謝礼15,000円、旅費36,880円</p> <p>◆資料調査研究 歴史調査謝礼費240,000円、資料調査協力者謝礼3,920円、研究紀要印刷費94,500円</p> <p>◆資料保存 燻蒸庫燻蒸委託料178,500円</p>						

【事業の概要】

事業の目的・事業の概要等

すぐにできる改善提案	平成24年度には施設の定期建築物・設備点検を、平成25年度には耐震化調査を実施し、施設改修長期計画の資料とします。坂井市の博物館として市全体の資料収集・調査・研究を行います。また、資料調査収集事業の計画に着手していきます。		
目標年度 平成25 年度			
取組状況	平成23年度には、自動ドアの改修、煙道改修などの大規模工事を実施し、開館30年の施設老朽化に対処しました。坂井市全体を対象に資料収集・調査・研究を行い、企画展示にその成果を反映してきました。しかし、旧三国町以外のまとまった資料収集には及ばず、調査収集事業を本格的に進めていく必要性があります。		
中長期的に取り組むべき改善提案	平成26年度にはエレベーターの入れ替え、平成27年度はライトアップ照明及び館内照明のLED化を実施します。また、施設改修長期計画に基づき、常設展示替えも視野に含めた改修計画に着手していきます。坂井市の博物館として、資料収集・調査・研究・情報発信の場としての役割を果たしていきます。また、常設展示替えのための計画を立て、準備を進めていきます。		
目標年度 平成28 年度			
取組状況	平成23年度には、自動ドアの改修、煙道改修などの大規模工事を実施し、開館30年の施設老朽化に対処しました。坂井市全体を対象に資料収集・調査・研究を行い、企画展示にその成果を反映してきました。しかし、旧三国町以外のまとまった資料収集には及ばず、調査収集事業を本格的に進めていく必要性があります。常設展示替えを視野に含めた、ハード、ソフト両面からの改修・調査の計画に取り組む必要があります。		

【前年度改善案に対する取組状況】

妥当性	【市民のニーズ】 社会情勢や環境の変化により、市民ニーズが薄れていませんか？	A. 薄れていない B. 少し薄れている C. 薄れている	A
	【市が実施する妥当性】 市が事業実施主体となることは妥当ですか？（国、県、民間の活動と重複していませんか？）	A. 妥当である B. あまり妥当でない C. 妥当でない	A
	【受益の公平性】 特定の個人や団体に受益が偏っていませんか？	A. 偏っていない B. 多少偏っている C. 偏っている	B
効率性	【事務の効率化】 事務手続きの見直しなど、事務の効率性をさらに向上させることができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
	【民間活力の導入】 事業の成果を低下させず民間活力（民間委託、指定管理者、まちづくり協議会等）を導入することで、さらにコスト削減することができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
	【歳入増加策】 受益者負担金や歳入増加策を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	B
有効性	【事業の成果】 事業成果の目標達成状況は順調ですか？（事業の成果が十分に上がっていますか？）	A. 順調である B. あまり順調でない C. 順調でない	B
	【サービス内容の見直し】 成果を向上させるためサービス水準や対象を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	B
	【他事業との統合】 類似・関連事業との統合により、成果をより向上させることはできますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	B

【担当者評価】

【所属長評価】

予算	款	教育費	項	社会教育費	目	文化振興費				
コスト	事業費	報酬	平成23年度		平成22年度		平成21年度		平成20年度	
			千円	千円	千円	千円	千円	千円		
			7,989	千円	千円	千円	千円	千円		
			7,648	千円	千円	千円	千円	千円		
			650	千円	千円	千円	千円	千円		
			2,850	千円	千円	千円	千円	千円		
			19,137	千円	千円	千円	千円	千円		
	人件費	正職員	1.35 人	9,173 千円	人	千円	人	千円	人	千円
		臨時職員	0.90 人	2,064 千円	人	千円	人	千円	人	千円
		人件費合計	2.25 人	11,237 千円	人	千円	人	千円	人	千円
		総事業費		30,374 千円		千円		千円		千円
	事業費	特定財源	国県支出金	千円	千円	千円	千円	千円		
			使用料・手数料	3,818 千円	千円	千円	千円	千円		
			分担金・負担金	千円	千円	千円	千円	千円		
地方債			千円	千円	千円	千円	千円			
その他			21 千円	千円	千円	千円	千円			
一般財源			26,535 千円	千円	千円	千円	千円			
	財源合計		30,374 千円		千円		千円		千円	

【事業のコスト】

事業の方向性	改善して継続します。			目標年度	--	年度を目安
判断事由	施設の老朽化に対応しながら市全体の資料収集、調査・研究を実施していきます。					
実施主体の方向性	現状どおり実施します。			目標年度	--	年度を目安
判断事由	引き続き市が実施していきます。					
コスト投入の方向性	事業費の増加を検討します。			目標年度	--	年度を目安
判断事由	坂井市の博物館として老朽化に伴う必要な施設修繕等を計画的に実施していきます。					
人員投入の方向性	現状を維持します。			目標年度	--	年度を目安
判断事由	現在の人員で事業を実施します。					
すぐにできる改善提案	坂井市の博物館として市全体の資料収集、調査・研究を実施していきます。					
目標年度 平成28 年度						
中長期的に取り組むべき改善提案	施設の老朽化に伴う施設改修や常設展示場替えを含めた改修計画作成に着手していきます。					
目標年度 平成28 年度						

【事業の成果】

	指標名	単位	年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度	
成果	みくに龍翔館入館料	円	目標値	4176930	達成率 4176930	達成率 4176930	達成率 4176930	
			実績値	3817620	91.4	3109950	3496660	3563250
成果	みくに龍翔館入館者数	人	目標値	18854	達成率 18854	達成率 18854	達成率 18854	
			実績値	17019	90.27	14259	16556	16561
活動	講座参加者数	人	目標値	40	達成率 40	達成率 40	達成率 40	
			実績値	93	232.5	31	38	51
活動	みくに龍翔館所蔵資料の特別利用数	件	目標値	10	達成率 10	達成率 10	達成率 10	
			実績値	26	260	10	100	11
活動	みくに龍翔館所蔵資料収集数（寄贈・寄託・購入・移管）	点	目標値	100	達成率 100	達成率 100	達成率 100	
			実績値	195	195	124	124	120
			目標値		達成率		達成率	
			実績値					

事務事業名	みくに龍翔館展示事業			事業コード	10050800602		
所管部署	みくに龍翔館		電話	82-5666		記入者名	角 明浩
事業対象	坂井市民、坂井市内外の利用者及び坂井市を訪れる観光客						
総合計画	基本構想	生涯を通じて学び・育つまちづくり			事業区分	自治事務（任意的なもの）	
	基本計画	歴史・文化・芸術の伝承と振興			事業種別	ソフト事業	
実施主体	市		実施手段	市が直接実施		委託内容	
根拠法令	有 博物館法、博物館法施行令、文化振興基本法						
根拠例規	有 坂井市みくに龍翔館条例、坂井市みくに龍翔館施行規則						
関連計画	有 坂井市教育振興基本計画						
事業の目的・事業の概要等	いわゆる博物館の四大機能（資料収集・整理保管・調査研究・教育普及）のうち、教育普及活動の事業の一環として、季節に応じた企画展・特別展を行う。 また常設展および企画展・特別展の展示内容を市内外からの来館者のニーズにあったものにする。						
	23年度は、春季には企画展として、収集・調査の成果報告をかねた「春の企画展 明治から伝えられたもの」（4月29日～5月29日）を、また秋季には坂井市誕生50周年・みくに龍翔館開館30周年の目玉事業として特別展「天下人の時代と坂井—戦国武将の息吹と足跡—」（10月29日～11月27日）を開催した。あわせて夏季にも30周年事業のひとつとして、若年層や家族連れに焦点を当てた「トリックアート作品展」（6月18日～7月24日、7月30日～9月11日）、また冬季にはONOメモリアルの代替として「小野忠弘作品展」（12月16日～）を催した。 また開館から30年を経過しているため、旧三国町の資料館として始まった常設展示内容を、坂井市の博物館のものとして替えてゆくために、資料の把握等を含めた調査を行う。 報償費255,000円、旅費44,130円、消耗品費34,698円、印刷製本費747,180円、運搬料1,437,975円、損害保険料144,540円						

【事業の概要】

事業の目的・事業の概要等

予算	款	教育費		項	社会教育費		目	文化振興費			
コスト	事業費	平成23年度		平成22年度		平成21年度		平成20年度			
		報酬	千円		千円		千円		千円		
		委託費	千円		千円		千円		千円		
		需用費	816千円		千円		千円		千円		
		役務費	1,583千円		千円		千円		千円		
		その他	299千円		千円		千円		千円		
		事業費合計	2,698千円		千円		千円		千円		
	人件費	正職員	1.05人	7,135千円	人	千円	人	千円	人	千円	
		臨時職員	0.90人	2,064千円	人	千円	人	千円	人	千円	
		人件費合計	1.95人	9,199千円	人	千円	人	千円	人	千円	
	総事業費	11,897千円		千円		千円		千円			
	事業費	特定財源	国県支出金	千円		千円		千円		千円	
			使用料・手数料	千円		千円		千円		千円	
分担金・負担金			千円		千円		千円		千円		
地方債			千円		千円		千円		千円		
その他			千円		千円		千円		千円		
一般財源		11,897千円		千円		千円		千円			
財源合計	11,897千円		千円		千円		千円				

【事業のコスト】

【事業の成果】

	指標名	単位	年度	平成23年度	平成22年度	平成21年度	平成20年度				
成果	特別展示室稼働率	%	目標値	19	達成率	18	達成率	19	達成率	21	達成率
			実績値	---	51	283.33	19	100	21	---	
活動	企画展・特別展実施期間内の入場者数	人	目標値	5058	達成率	8085	達成率	3186	達成率	3904	達成率
			実績値	---	6241	77.19	4112	129.06	4586	---	
活動	展示図録等販売	円	目標値	326000	達成率	230000	達成率	378000	達成率	370000	達成率
			実績値	---	202050	87.85	307050	81.23	261800	---	
活動	来館者の満足度（アンケート結果の平均） ※23年度よりの新規項目	%	目標値	75.0	達成率	---	達成率	---	達成率	---	達成率
			実績値	87.3	116.4	---	---	---	---		
			目標値		達成率		達成率		達成率		達成率
			実績値								
			目標値		達成率		達成率		達成率		達成率
			実績値								

すぐできる改善提案	坂井市唯一の公立博物館として、また福井県北部の中核博物館として、集材・調査をもとに企画展・特別展を催し、関連資料の展示と紹介を行いました。内には地域の主体者である市民が生活文化を楽しむ学びの舞台として、また外には坂井市域の風土や歴史・文化を発信する中枢機関として、魅力ある博物館づくりにつとめました。		
目標年度 未設定 年度			
取組状況	資料収集や調査の成果を市民および市外からの来館者に還元するために、季節に応じた企画展・特別展を開催しました。来館者を増やすために、積極的な報道機関を通じた周知・広報の他、特別展では学芸員が来館者に展示説明をするギャラリートークを行いました。23年度より、次の展示およびPR方法の参考に資するべく、アンケートを実施して来館者の年齢層・来館理由・満足度やニーズ等を探りました。		
中長期的に取り組むべき改善提案	今後、館の資料収集・調査研究活動の成果報告をかねた企画展・特別展を立案・開催して、坂井市の文化的向上の寄与につとめます。また合併による坂井市誕生10周年や、市に関連の深い人物の生誕（没後）周年など、そのつど記念事業による展示を催し、集客をはかりたいと考えています。		
目標年度 未設定 年度			
取組状況	資料調査の面においては、特に三国地区以外の悉皆調査が必要ですが、県や他市町に較べると、学芸員の業務に占める一般事務の割合が高く、同時に市内外からのレファレンス処理業務、さらにはONOメモリアル管理運営事業も抱え、展示にいたる十分な調査の蓄積をすることが困難な状況にあります。		

【前年度改善案に対する取組状況】

妥当性	【市民のニーズ】 社会情勢や環境の変化により、市民ニーズが薄れていませんか？	A. 薄れていない B. 少し薄れている C. 薄れている	A
	【市が実施する妥当性】 市が事業実施主体となることは妥当ですか？（国、県、民間の活動と重複していませんか？）	A. 妥当である B. あまり妥当でない C. 妥当でない	A
	【受益の公平性】 特定の個人や団体に受益が偏っていませんか？	A. 偏っていない B. 多少偏っている C. 偏っている	A
効率性	【事務の効率化】 事務手続きの見直しなど、事務の効率性をさらに向上させることができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
	【民間活力の導入】 事業の成果を低下させず民間活力（民間委託、指定管理者、まちづくり協議会等）を導入することで、さらにコスト削減することができますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A
	【歳入増加策】 受益者負担金や歳入増加策を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	B
有効性	【事業の成果】 事業成果の目標達成状況は順調ですか？（事業の成果が十分に上がっていますか？）	A. 順調である B. あまり順調でない C. 順調でない	A
	【サービス内容の見直し】 成果を向上させるためサービス水準や対象を見直す余地はありますか？	A. 余地はない B. 検討の余地あり C. 見直すべき	B
	【他事業との統合】 類似・関連事業との統合により、成果をより向上させることはできますか？	A. できない B. 検討の余地あり C. できる	A

【担当者評価】

【所属長評価】

事業の方向性	このまま継続します。		目標年度	--	年度を目安
判断事由	資料収集や調査の成果を還元するために企画展・特別展を開催し市民に学ぶ機会を提供しています。				
実施主体の方向性	現状どおり実施します。		目標年度	--	年度を目安
判断事由	引き続き市が実施していきます。				
コスト投入の方向性	現状を維持します。		目標年度	--	年度を目安
判断事由	現在の予算を最大限に活用して集客に努めます。				
人員投入の方向性	現状を維持します。		目標年度	--	年度を目安
判断事由	現在の人員で事業を実施します。				
すぐできる改善提案	アンケート結果を踏まえて坂井市の博物館として市民ニーズに合ったわかりやすい内容の展示内容を検討していきます。				
目標年度 平成28 年度					
中長期的に取り組むべき改善提案	企画展・特別展の内容を坂井市全体の市民ニーズに即したわかりやすいものや市に関連の深い人物の生誕周年等記念事業による展示を開催して集客に努めていきます。また市の博物館としての常設展示内容替えの改修計画作成に着手していきます。				
目標年度 平成28 年度					